

道徳授業地区公開講座

道徳主任 今清水 仁美

道徳科では、「対話（話し合う）活動」や、「物事を多面的・多角的に考えること」を重視しています。子供たちには、「道徳の答えは一つではなく、人それぞれいろいろな考え方があって、そのどれも間違いではない。」と伝えています。

一人一台、タブレットが配布されてからは、オクリンク、ムーブノートといったアプリを活用し、ノートに書いた自分の考えをカメラで撮影して提出することで、学級全員の考えを知ることができるようになりました。なかなか発言ができない児童の考えも全体に共有することができ、対話活動も広がってきているなど感じます。今後も友達とたくさん対話することで、多様な感じ方や考え方に触れ、それを自分の生き方に活かしてほしいと考えています。

また、10月14日（土）の学校公開では、「道徳授業地区公開講座」を実施する予定です。今年度は、日本一学校を回るお笑いコンビとして知られています「オシエルズ」のお二人にご講演していただく予定です。オシエルズさんは、教員免許をお持ちで、多くの学校での講演実績がある方々です。「笑いと人権～人を傷つける笑い、傷つけない笑いの違い～」をテーマにお話しをさせていただきます。講演会終了後には、講師の「オシエルズ」さん、保護者、地域の方々との意見交換会も行う予定ですので、ぜひ地域協働の皆様方にも足をお運びいただければ幸いです。どうぞ、よろしく願いいたします。

もみじ読書旬間（11月6日～17日）

図書主任 長尾 崇嗣

開いた本に汗がしたたり落ちるような猛暑がどうにか終わり、読書の秋はすでに到来しているように感じられます。図書委員会の5、6年生は、11月の「もみじ読書旬間」に向けて準備しているところです。

梅雨時の「あじさい読書旬間」では、10日間で読破してほしい目標ページ数を学年ごとに提示しました。達成できた児童には、「長期休業直前まで、図書室で本を2冊多く借りられる権利が果たしおり」を配布しました。来る「もみじ読書旬間」でも、同じ取り組みを予定しています。目標ページ数は、「あじさい読書旬間」と同じにしました。以下の通りです。

1～3年生：100ページ 4年生：150ページ 5、6年生：200ページ

読んだページ数が多ければ多いほど良いのか？というご意見はもったもだと思えますし、本をゆっくりじっくり読むことで見えてくる世界があるのも分かります。しかし、3～6年生が使用する第一図書室と、1、2年生が使用する第二図書室、合わせると実に1万1千冊近い蔵書があるのです。よっぽどの読書家でも、大半を手にとることなく6年間を終えてしまうでしょう。愛読書を何度も繰り返し読む楽しさも素晴らしいですが、今年も「もみじ読書旬間」を機に、普段は手に取らない本や目を向けられない書架に、自分から歩み寄ってみるのもいいのではないのでしょうか。

